

第3章

地球市民学探究講座

吉川 奈奈

2. 学習方法

本講座の特色は、50分講義の後に、60分のグループまたは集団課題があることで、講義で学んだことをワーク・アクティビティーを通じて実践的に、また自主的に応用する力を培うことである。例えば、アクティビティーの一例として、集団討議やグループ・シミュレーションなどが実施された。

・成果と課題

前出の表3と表4からもわかるように、講義をうけるまでは、地球市民学について「よく知っている」「ある程度知っている」と答えた生徒は合わせて7%ほどであっ

たが、講義後のアンケートでは、どのような学問かが「非常に明確になった」と「明確になった」とを合わせて80%近くになったことから、地球市民学の学問領域に対する認識の高まりは全体として高くなったといえる。

それぞれの専門研究に従事している複数の大学教員から直接学ぶことで、学問領域にある知識・理解が深まったと推定できる。また、多様な学習領域を用意したことで、大学で人文・社会学系学問を専攻しようと考えているものに対して、複数の学問について事前に関心を持て、高・大接続の機能を十分果たしたと言えよう。また、一つの研究領域も複数の学問がつながっていることを実感し、学問領域のつながりを自覚するようになっていくようである。

次のデータは授業直後のアンケート結果である。生命科学と同様に集計してある。

A. 今日の授業の内容はよく理解できましたか？	度数	1	2	3	4	5	平均	標準偏差
H21	375	29.6%	62.1%	6.7%	1.6%	0%	1.8	0.6
H22	272	35.3%	51.8%	6.3%	6.3%	0.4%	1.85	0.82

B. 今日の授業の内容に興味が持てましたか？	度数	1	2	3	4	5	平均	標準偏差
H21	375	47.7%	45.9%	5.6%	0.5%	0.3%	1.6	0.6
H22	272	49.6%	41.9%	4.8%	2.9%	0.7%	1.63	0.77

C. 何か新しいことを発見することができましたか？	度数	1	2	3	4	5	平均	標準偏差
H21	375	46.1%	46.4%	7.2%	0.3%	0%	1.6	0.6
H22	272	46.7%	43.0%	7.0%	3.3%	0%	1.67	0.75

D. 授業後に自分で調べてみようという気持ちが生まれましたか？	度数	1	2	3	4	5	平均	標準偏差
H21	375	21.9%	49.6%	26.1%	2.1%	0.3%	2.1	0.8
H22	272	26.8%	45.6%	21.3%	5.5%	0.7%	2.08	0.87

E. 授業に意欲的に取り組むことができたか?	度数	1	2	3	4	5	平均	標準偏差
H21	375	34.9%	56.3%	6.7%	2.1%	0%	1.8	0.7
H22	272	39.0%	48.9%	7.7%	4.4%	0%	1.78	0.77

このデータから、昨年と比べるとややばらつきはみられるものの、生命科学と同様によく授業を理解し、意欲や興味を持って参加していることや、新しい発見をしていること、自分で調べてみようとする気持ちも強まっていることが見て取れる。

授業後の感想からは、1. 科学への興味・関心、3. 人間・自然・社会に関する深い科学的理解力といった学びの力がつき、4. 論理的・多面的・批判的思考力と表現力の形成にも役だったことがうかがえる。

クイズ形式で考えたりしたことや、グループで話し合った事をB紙にまとめて発表するなど、とても楽しく、意欲的に参加したようである。自主的に応用する力を養う学習方法を通して、大学における演習や、大学で期待される学習方法を体験させ、「学習方法の学習」を施す意味で重要な機会を提供できた。また、問題解決型の学習により社会科学的の研究の方法論や研究活動に対する理解が深まった。

キャリア意識の形成という観念における3. 自分の興味・関心を深く探るといったことにも役だったようである。

今後の地球市民学講座の課題としては、学習内容の系統性をさらに進めたシラバスの形成と、学んだ内容をさらに統合して考えさせる課題の与え方、事前の準備活動、事後のまとめ学習などに工夫をする必要がある。

